

免許状教科	中学校 1 種（社会）		
科目名	道徳教育の理論と方法	科目分類	教職科目
			経済学科 ■必修 □選択
英文表記	Moral Education Theory and Teaching Methods	開講年次	□ 1 年 ■ 2 年 □ 3 年 □ 4 年
		開講期間	□前期 □後期 □通年 ■集中
ふりがな	いしくろ まゆこ	修得単位	2 単位
担当者名	石黒 真愁子	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用
授業のテーマ	児童生徒の未来を育む道徳教育の在り方		
到達目標	（１）道徳の理論 ①道徳の本質を理解し説明することができる。 ②道徳教育の歴史や「特別の教科 道徳」の方向性、今日的課題を理解することができる。 ③子どもの心の成長と道徳性の発達について理解している。 ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標や内容を理解している。 （２）道徳の指導法 ①学校における教育活動全体を通して行われる道徳教育の全体計画や道徳の時間の指導計画の必要性を理解している。 ②道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解し活用することができる。 ③道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。 ④学校や学年段階、実態を踏まえ、明確な授業のねらいを設定するとともに、指導過程を工夫し指導案を作成することができる。 ⑥模擬授業の振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 ⑦道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解し、評価することができる。		
授業概要	未来を担う児童生徒には、答えのない課題に対し、主体性をもちながらも、他者と協働して納得解を打ち出していく資質・能力が求められている。変化の激しい状況においても、個人の豊かな人生と、幸福な社会の実現のために道徳教育は大きな役割を果たす。本講義では道徳教育の歴史や道徳性の発達論などの理論とともに、道徳教育やその要となる道徳科に対する深い理解をもとに、様々な切り口から演習を中心としたアクティブ・ラーニングを展開することを通して、具体的な指導技術や教科理解を身に付け、学生たちが教育現場で通用する実践的な授業力を養うことを目的としている。具体的には『中学校学習指導要領解説』の「第Ⅰ章 総則」および「道徳編」に示された道徳教育の目標、内容、指導計画の作成、授業構想等についての基礎的な理解をもとに、教材研究を進め、指導案作成や模擬授業等を通して実践へと結び付け児童生徒の豊かな道徳性を育成する力を身に付けることを目指している。		
授業計画			
第 1 回	○ガイダンス○道徳教育とは何か○授業の方針、年間授業計画 ○道徳教育とは何か、その特質と重要性 ・【事前】（2 時間） ・『改訂版 道徳にチャレンジ』P6 を読む。『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』第 1 章を読む。 ・【事後】（2 時間） ・道徳教育の意義についてまとめる。		
第 2 回	○令和の日本型学校教育と道徳教育 ・道徳教育における主体的・対話的で深い学び ・個別最適な学びと協働的な学び ・学習指導要領の変遷等 ・【事前】（2 時間） ・『改訂版 道徳にチャレンジ』P8、10、12、19、21、141 を読む。 ・【事後】（2 時間） ・道徳教育において主体的・対話的で深い学びを通して、自身が児童生徒に育成したい資質・能力について、根拠を明確に考える。		
第 3 回	○道徳性の発達論		

	・道徳性とは何か。 ・道徳性の発達段階 ・ピアジェ、コールバーグ、デュルケイム、フロイト、デューイ等の道徳性発達論 ※授業の様子を視聴する。 ・【事前】(2時間) ・『改訂版 道徳にチャレンジ』P22, 24を読む。 ・【事後】(2時間) ・コールバーグなどの道徳性の発達論の特徴をおさえる。また、ハイน์ツのジレンマに対する自身の考えを根拠をもってまとめる。
第4回	○戦前・戦後の学校における道徳教育 ・道徳教育の歴史的変遷 ・【事前】(2時間) ・『改訂版 道徳にチャレンジ』P14を読む。 ・【事後】(2時間) ・戦前の修身教育と戦後の道徳教育との類似点や相違点をまとめる。また、昭和33年に「道徳の時間」が特設された背景を理解する。
第5回	○道徳教育の目標と道徳科の目標○道徳教育全体計画、年間指導計画、別葉について ○4つの視点と内容項目 ・【事前】(2時間) ・『改訂版 道徳にチャレンジ』P30、32、35、36、38、40、44、47、50、52、54を読む。 ・『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』第2章、第3章を読む。 ・【事後】(2時間) ・中学校の22の内容項目から、1つ選択し、自身の考えを述べる。また、道徳教育や道徳科の目標がいかなるものか咀嚼し、それを具現化する全体計画や年間指導計画作成の際の留意点について考える。
第6回	○教材分析の仕方 ・授業構想のための教材分析の手だて ・【事前】(2時間) ・『改訂版 道徳にチャレンジ』P74、78、83、を読む。『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』P104, 105, 106, 107, 108を読む。 ・【事後】(2時間) ・教材分析表を活用し、実際に教材分析を行う。 ○道徳科学習指導案の様式 ・学習指導案の書き方 ・【事前】(2時間) ・『改訂版 道徳にチャレンジ』P68、70、72、88、90、94、を読む。『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』第4章第2節を読む。 ・【事後】(2時間) ・道徳科学習指導案の様式をおさえ、着眼点を理解する。
第7回	○道徳科学習指導案作成の実際（中学校読み物教材 「人生を変えた一杯のみそ汁」） ・本時のねらいや基本発問、中心発問などの学習指導過程を中心とした指導案作成。 ・【事前】(2時間) ・『改訂版 道徳にチャレンジ』P96を読む。 ・【事後】(2時間) ・道徳科学習指導案作成の手順や発問の作成についてポイントをおさえる。
第8回	○道徳科学習指導案作成の実際 ・主題設定の理由等の指導案作成の演習 ・【事前】(2時間) ・『改訂版 道徳にチャレンジ』P96、107、109を読む。 ・【事後】(2時間) ・これまでの講義から実際に道徳科学習指導案を作成する。
第9回	○道徳科学習指導案作成とグループ内模擬授業中学校読み物教材) ・【事前】(2時間) ・学習指導案を構想する。 ・【事後】(2時間) ・模擬授業を振り返り、学習指導案の改善を図る。
第10回	○質の高い多様な指導方法 ・読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習・問題解決的な学習・道徳的行為に関する体験的な学習等 ・【事前】(2時間) ・『改訂版 道徳にチャレンジ』P55、60を読む。

	・【事後】(2 時間) ・質の高い3つの指導方法の特徴をおさえ、学習指導案に反映させる。
第11回	○道徳科における評価 ・評価の意義・評価の視点、観点・評価ツール・評価方法・評価の演習 ・【事前】(2 時間) ・『改訂版 道徳にチャレンジ』P126、127、135、137を読む。『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』第5章を読む。 ・【事後】(2 時間) ・評価の基本姿勢をおさえ、実際に通知表の評価文を作成する。
第12回	○情報モラルと現代的な課題 ・いじめ問題、情報モラル等の現代的課題 ○道徳教育と各教科等、家庭や地域社会との連携 ・連携の意義や方法 ・【事前】(2 時間) ・『改訂版 道徳にチャレンジ』P112、116、119、120、121を読む。 ・『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』P99、100、101、102、103を読む。 ・【事後】(2 時間) ・現代的な課題と道徳教育の内容項目との関連を考える。また、全体計画や別葉の事例を参考に、道徳教育と各教科等との関連を確認する。さらに、家庭や地域社会との連携を図るための手だてとなる情報発信や情報収集をまとめる。
第13回	○模擬授業の振り返りと授業改善 内容項目4つの視点のうちのAとB ・【事前】(2 時間) ・学習指導案を構想する。 ・【事後】(2 時間) ・模擬授業を振り返り、授業改善の視点を明確にする。
第14回	○模擬授業の振り返りと授業改善 内容項目4つの視点のうちのCとD ・【事前】(2 時間) ・学習指導案を構想する。 ・【事後】(2 時間) ・模擬授業を振り返り、授業改善の視点を明確にする。
第15回	○まとめと振り返り
第16回	定期試験
授業時間外の学習	事前にテキストや学習指導要領の読み込み、指導案やレポート作成に向け、予習2時間程度)する。授業計画に記載されている事前、事後学習内容を参考に、講義内容の振り返りや、まとめの考察を行う。(事前学修2時間程度、復習2時間程度)
履修条件 受講のルール	道徳教育の意義を理解し、これまでの道徳教育の歴史や道徳性の発達を学ぶと共に、道徳科の授業実践に直結した指導力を身に付けるため、教材吟味や指導案作成、模擬授業に重点を置きます。アクティブ・ラーニングへの積極的な参加や教材研究を期待します。授業では、基本的なマナー（私語、脱帽、飲食、退室の際の声掛け、スマホの使用など）を守り、互いに気持ちの良い授業の運営に協力してください。中座や欠席の際は、事前に必ず声をかけてください。毎時間、ノートパソコン、テキスト『改訂版 道徳にチャレンジ』『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』は毎時間必ず持参してください。シラバスは授業の進行状況により、途中で修正される可能性があります。
テキスト	○『改訂版 道徳にチャレンジ』石黒真愁子著 日本文教出版 2025 年 ○文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』2017 年 ※適宜、読み物教材や資料を配付します。
参考文献・資料	○赤堀博行著『道徳授業で大切なこと』東洋館出版 ○赤堀博行著『「特別の教科道徳」で大切なこと』東洋館出版社
成績評価の方法	筆記試験50%、レポートや、模擬授業、授業への意欲・態度等平常点等50%で評価します。 ※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	集中講義のため特になし、期間中いつでも対応します。
成績評価の基準	秀 (100～90 点)、優 (89～80 点)、良 (79～70 点)、可 (69～60 点)、不可 (59 点以下)
学生へのメッセージ	道徳教育は難しいというイメージがありますが、じっくりと考えることで力がついていきます。教育実習の授業実践にむけても、教えられる立場から教える立場へと実践的な指導力を身に付けていきましょう。